



山梨県議会議員

# 古屋雅夫

## 県政だより

市民と県をつなぐ架け橋

<http://www.e-masao.net>

(6月定例議会報告)

## 知事所信で「山梨のポテンシャルを最大限生かし県の未来を切り開く」決意を強調

### 文化・芸術資源を地域の活性化につなげる

- 文化芸術基本条例の制定を目指す
- 県立美術館開館40周年記念、ミレー作品・「角笛を吹く牛飼い」購入へ

### 平成30年6月定例県議会

#### 後藤知事の所信表明の概要

さる6月19日から7月4日までの16日間、6月定例県議会が開かれた。本定例議会に上程された知事提出議案は条例関係3件、承認関係1件、予算関係4件（H30年度一般会計補正予算83億7千9百万円余）、その他2件。請願1件（教職員の定数改善、少人数学級推進等を図る）、及び議員提出案件5件が提案され、各常任委員会に付託・審議され、最終日の本会議で可決成立しました。

特に6月定例会所信表明で後藤知事は(1) 就任以来（3年3ヶ月）、直面するさまざまな変化をネガティブに捉えるのではなく、県民が一丸となって「地域力」を引き出す好機と捉え、県の飛躍の大きなきっかけとする重要性を訴え取り組んできた。中部横断自動車道の開通や東京五輪・パラリンピック大会の開催、リニア中央新幹線の開業など、山梨の可能性は大きく広がりを見せている。山梨のポテンシャルを最大限生かし次の一步を踏み出し、「未来を切り開いていく」ことを強調、(2) 「人口問題」については交流人口の一部を換算した「リンケージ人口」（総務省は「関係人口」と呼んでいる）の暫定値を6.5万人と発表した。「人口の増加に向けて市町村、企業との連携を図り、地域居住や在宅型周遊観光などの促進を進める、

(3) 平成30年度の公共事業費は国等への働きかけの結果、当初予算を大きく上回る内示を受け

806億円余を計上した。(4) 県立美術館が開館40周年の節目を迎え、県内外にミレー美術館として魅力を力強く発信するために、ミレー作品「角笛を吹く牛飼い」を、美術資料取得基金を活用し購入する。(購入予定価格8,991万円) また、本県の持つこうした美術館のみならず芸術的な価値、文化的価値を持つ世界遺産富士山、魅力ある伝統産業や食文化など豊かな文化資源を地域の活性化につなげていくことを目的に「文化芸術基本条例（仮称）」の制定を目指すことを明らかにした。



ミレー作品「角笛を吹く牛飼い」  
山梨県教育委員会提供

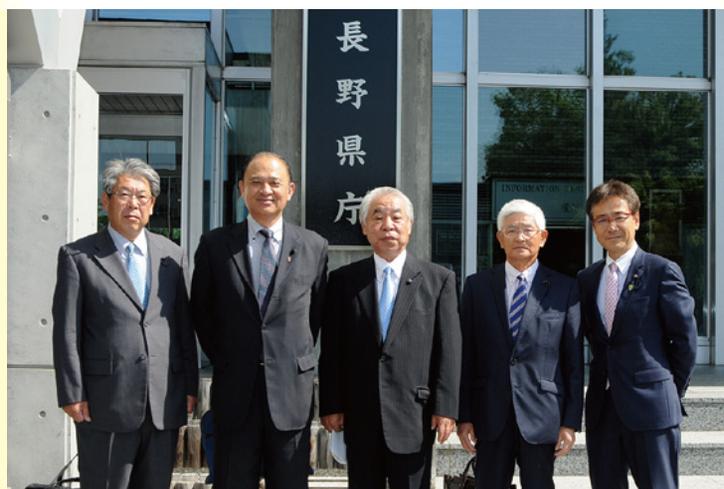


所属委員会：土木森林環境常任委員会（山梨県水防訓練に参加）

### リベラルやまなし（所属会派）代表質問事項

「リベラルやまなし」は後藤県政を支援する立場から、県政が抱える次の課題等に対し6月議会では「清水喜美男」県議（甲斐市）が、会派を代表して質問をした。

1. 「CO2 ゼロ山梨」の実現について
  - (1) 「CO2 ゼロ山梨」の実現に向けた県民意識の醸成について
  - (2) 「CO2 ゼロ山梨」の実現に向けた県民運動の担い手について
2. 大規模災害時における応援受入れ体制について
3. 避難生活における保健医療提供体制について
4. 希少な野生動植物の保護・保全について（裏面に掲載）
5. 木質バイオマスの利用促進について
6. 森林空間の活用促進について（裏面に掲載）
7. 医療機器関連産業に参入する中小企業への支援について
8. 耕作放棄地対策について
9. 農業への新規参入者の確保と経営の安定化について
10. 豪雨災害への対応について
11. 下水道施設（県管理）の老朽化対策について
12. 地域産業を支える人材育成教育について



（写真：視察先 長野県庁にて）

※ なお9月定例議会で「古屋まさお」県議が代表質問に立つ予定です。

《県民アンケート》 **山梨県の魅力第1位「自然環境に恵まれていること!」この自然環境等について質す**

**希少な野生動植物の保護・保全対策の推進について(県の考え方)**

(1) 甲武信ユネスコエコパーク協議会(会長・後藤知事、県内は10市町村が参加)の会合(H30.7.3)で高山帯に広がるシカの食害から高山の植生帯を守るため、自治体や有識者でつくる「ニホンジカ保護管理WGの設置」を決め対策を講じる方針を明らかにした(2) 加えて、本県の自然環境を守っていくために多様な野生動植物の実態調査を行い全国的に希少なアカハネバツをはじめ22種の絶滅危惧種が新たに確認されるなど、レッドデータブック掲載種数723種と前回調査と比べ95種増加するとともにシカによる食害や地球の温暖化の影響が顕著であることが明らかになった。

保護・保全対策はこうした調査を踏まえ、①法的な保護の対象外の昆虫類などについても希少野生動植物への指定の検討、②山岳レインジャー等のパトロールの強化、③環境影響評価における事業者への野生動植物の保全求める取り組み、④県民に対する環境保全の重要性を広く周知するパンフ等の配布など、一層の自然環境の保護・保全対策の推進に取り組む。

**森林空間の活用の促進について(県の考え方)**

県土の約78%を占める森林。県は**武田の杜**など3つの森林公園と**乙女高原の森**をはじめとする12の森林文化の森を設置し、森林の有する保険休養機能を活用した観光、レクリエーション利用促進に取り組んでいく。

具体的にはそれぞれの立地環境を生かし、地元市町村や観光団体と連携したイベント等により年間40万人を超える方が訪れている。

また、次世代を担う子供たちをはじめ、多くの県民に森林の役割や大切さについて理解を深めていただくため自然観察や親子キャンプ等の体験型プログラムを森林公園に提供する。小・中学校等の教育機関が森林で行う様々な活動の支援を行い森林環境教育の推進を図る。今後は、本県の魅力ある森林スポット100選や、都市山村の交流の場として企業等に呼び掛けている「クライン・ヴァルト(小さな森)」を、県内外にPRするとともに、森林の癒し効果を取り入れた体験活動の充実に取り組み、森林空間の活用の促進を図る。



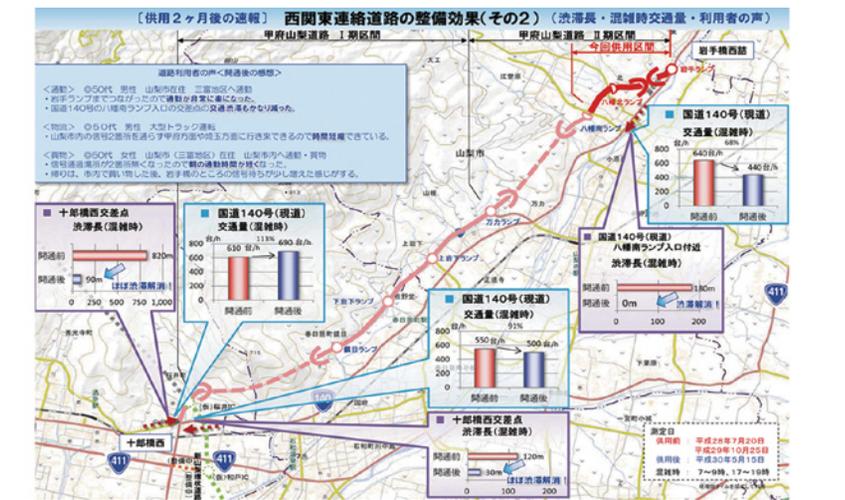
**「古屋まさお」県議 事業チェック**

**西関東連絡道路開通後(甲府山梨道路Ⅱ期)整備効果について**

●国道140号線八幡南ランプ入口、岩出方面から交差点まで渋滞が解消!

甲府山梨道路Ⅱ期(万カランプ～岩出ランプまでの3.9km)は甲府山梨道路Ⅰ期の延伸として平成20年度事業着手し万カランプ～八幡ランプまで2.3kmを平成26年12月に完成2車線にて供用。平成30年3月21日に残る八幡南ランプ～岩手ランプまでの1.6kmを完成2車線で開通した。

- この道路が開通して1ヶ月の調査内容がまとめ公表された。
- ◆西関東道路: 万カランプ～八幡南ランプ開通前後の状況
    - 開通前: 7,740台/12時間
    - 開通後: 9,920台/12時間(八幡南ランプ付近) … **<28%増加>**
  - ◆国道140号 現道(八幡ランプ入口付近交差点) 岩手ランプまで開通後状況
    - 開通前: 7,050台/12時間
    - 開通後: 6,510台/12時間 … **<8%減少>**
- ◇リニア開通までに、残されたリニア新駅まで東部区間7.1km早期開通を目指す



**「古屋まさお」県議の視察報告**

**自然保育に取り組む「長野県・自然保育認定制度」を視察**

さる6月に森と自然を生かした保育、幼児教育に積極的に取り組むNPO法人・「響育の山里くじら雲」**信州型自然保育認定制度**の実例を視察しました。まさに私が育った環境そのものであり、屋外を中心とする様々な体験活動を保育や幼児教育に取り入れ、「いきいき」と子ども



たちが過ごしていました。また、**きょういく やまさお** 依田園長の「響育の山里くじら雲」設立の思いは人一倍であり、保護者と一緒に取り組む「**信州やまほいくの郷**」等、こうした「認定制度」を、山梨県においても取り入れるよう政策提言していきます。



6月定例会 常任委員会で質問



地元保育園とのさつまいも植え付け作業



長野子ども病院(ドクターカー)視察



水防訓練・川倉工法等を視察

**古屋まさおの活動**



山梨市少年野球大会



台湾・高雄市議会 山梨県議会友好宣言調印式出席

**古屋まさおの一言 あとがき**

▶この度の甚大な西日本豪雨災害、お亡くなりになられた方々に謹んでご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災されました皆様方に衷心よりお見舞い申し上げます。被災地の皆様の無事と1日も早い復興をお祈り申し上げます。▶県土の約78%が森林である山梨県、こうした豪雨災害等への備え、引き続き市町村との連携強化を含め県民の安全・安心に取り組んでいきます。▶昨年の県民アンケートで「山梨県のよいところ」の質問に対し1位は「自然環境に恵まれていること」(回答の84%)、その自然の保護・保全や森林の活用策等、代表質問の一部を今回の「県政だより」に掲載しました。▶まだまだ暑さ厳しき折柄、くれぐれもご自愛下さい。